

東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/ 松田 和秀
編集者/ 教育・広報部

横浜地本第4回地方委員会開催!

2月25日、川崎市総合自治会館において、横浜地方本部第4回地方委員会を開催し、第5回定期大会から半年間の総括と次期大会までの活動方針を満場一致で決定しました。

松田執行委員長のあいさつ(要旨)では、結成直後川崎駅構内での京浜東北線の軌陸車との衝突・転覆事故があった。この事故を契機に支社に経営協議会(安全分科)をやるべきと追求してきた。しかし支社は経営協議会(安全分科)はやらない、申し入れでしっかりとやるということで、緊急な申し入れにも関わらず、1年3ヶ月後に交渉が行われた。この間も事故が相次いでいる。一步間違えれば死傷事故に繋がる事故が発生している。その事に関しても支社には経営協議会(安全分科)団体交渉で強く求めてきたが、断固として受け入れず平行線の状態である。我々はしっかりと職場から組合員と社員の安全を守るために追求をしていく。2月3日に中央本部は定期中央委員会で2018春闘の要求を決定した。JR東日本は第3四半期決算にて絶好調な経営状況を発表している。右肩上がりの状況で、支払い能力は十二分にある。是非とも職場から満額獲得の声を大にしていきたい。昨年の2017春闘、3名の平成採の拡大があった。加入をしてから共に歩む強い意志がなければならない。様々な教訓を次の拡大へと繋げていきたい。エルダー社員制度について、この間プロジェクト会議・意見交換会等開催してきたが、スケジュール通りに進んでいないことで提示が遅れ希望通りに決まらない切実な悩みがある。エルダー先の就労条件の不満、制度を使用する組合員だけでなく分会全体の運動として作り、地本・本部と連携を取りながら制度の在り方についても、希望通り沿うように作っていく。JR発足30年あらゆる労働条件・労働環境の総点検行動を全組合員参加型で取り組んでいただいた。本部で精査をし、地本としても纏めながら、今後地本の要求として支社に申し入れを行っていく。全員の要求を読まさせていただいた。切



実な問題、改善点を改修するには責任を感じる要求であった。本部・地本・分会連携を密にして改善に向け取り組んでいく。結成から変わらないスローガンのもとで200名組織をしっかりと目指す、仲間を思いやる組織、組合員のための運動、そして全組合員総意で推し進めていきたいと述べました。

今委員会には、中央本部から佐藤中央執行委員長、末永総務部長、栗田組織部長。ご来賓として退職者連絡会から小布施会長にご参加いただき、各自あいさつを受けました。

議長に矢向車掌区分会 小清水和彦委員を選出し、質疑では12名の委員から発言がありました。主には①安全問題について ②2018春闘について ③エルダー社員制度について ④要員問題について ⑤ライフサイクルについて ⑥モニター制度について ⑦組織強化・拡大について ⑧川崎駅北口改札開業について ⑨ダイヤ改正検証の取り組みについて ⑩情報宣伝活動について ⑪総務・財政関係等の発言が出されました。

足立書記長の集約答弁(要旨)では、東日本ユニオンの運動に自信を持ち、この半年をしっかりと職場から運動で推し進めていただいた成果・課題、そして多くの苦労を12名の委員の発言をいただいた。横浜地本はスローガンに掲げるように、一人ひとりが職場を拠点とした、全組合員参加型の運動を通じて組織の強化・拡大を目指す。そのことを運動の柱として取り組みを作り出してきた。課題は200名組織をどのように実現をしていくのか、それを作り出す分会運動の強化である。分会運動を担う組合員一人ひとりが、現状よりも一歩でも半歩でも前へ出る職場での行動を起こすことによって作り出されるそれ以外なものでもない。日々起こる職場の問題、他労組との関わり、先ず自分自身が何を発信するのか、そして分会として職場の問題についてどのように運動を作り出すのかという取り組みが必要である。組織強化・拡大については、様々な職場の組合員の立場に根差した運動で、この間作ってきた組織は他労組から信頼をされる組織として、一つの選択肢として今存在しているということ、自信と確信を確認し更なる強化・拡大へ全組合員の実践を通じたたたかいで推し進めていく。安全問題については、この間会社の駅・構内における効率化が直営事業で行っていた工事作業の外注化など、現場での安全レベル、技術レベルが低下している。労働組合として一つひとつの事象に対して交渉を行っている。会社施策で行った効率化の歪みが今現場で大きな事故の目として発生をしている。一歩間違えるとお客様の「命」、社員の「命」、私たちの「命」を失うかもしれない事象として多く現れている。現場で働く私たちが持つ安全の意識、分会での運動で事故を未然に防ぐ、事故を起こさない対策を労使で作ることが真の安全へ繋がる。何か問題が起きてから対策をする、異常時を想定した対策をしない会社の姿勢、しっかりと解決をしていく、安全については妥協しない運動を継続して作り出していく。労働組合としてしっかりとチェック機能を果たすそのことが大事である。エルダー制度については、現在59歳、今まさに提示を受けている組合員も多くいる。来年・再来年と制度を使用する組合員の方々の切実な声があった。この間プロジェクト会議や様々な場を通じて、希望に沿わない現実や将来のスケジュール大きく外れていることへの不安、エルダー先の就労条件の不満を把握している。制度を使用する組合員だけの問題とせず、分会全体の運動として地本・本部と連携をしてたたかいを作り出していくことが課題である。制度の在り方を含め、本人の希望に沿うように、制度についての問題点と、就労条件の改善、この2点に問題を絞り明確に議論を作り出していく。現状を把握しより良い利用しやすい制度を求めるとともに、会社が言うエルダー制度は「人事異動」「要員が絡むパズルを合やす」というような制度ではなく、安心して第2の人生をスタート出来る働ける制度を求めていかななくてはならない。2018春闘については、要求実現に向け全組合員の行動と労働者の結集を広く呼び掛け、3.3集会を横浜から作り出していく。結成から5年が経った。私たちは一つの大きな節目にいる。組織内における世代交代。拡大・担い手づくり、そして私たちが東日本ユニオンをどのような労働組合に作り育てていくのかということである。一人ひとりが考えて全体の運動を実践で、全組合員の歩むべき道を作り出していきたい。仲間・組織を想う労働組合らしく組合員のための運動を、人にあたたかい労働組合を、しっかりと会社とたたかえる労働組合の運動を全組合員の実践で更に強く作り出していきたいと答弁を行いました。

